

**GOD WITH US**  
Part 10: EARLY LETTERS  
**Message 7 – 1 Corinthians**  
A Letter to a Troubled Church  
**1Corinthians 1-11**

神は我らと共に

パート10：初期の手紙

第7メッセージ-コリント人への手紙 第一

問題のある教会に宛てた手紙

コリント人への手紙 第一 1-11章

## はじめに

パウロは、2度目の伝導旅行の途中、コリントに1年から1年半滞在しました（使徒18：1-18）。また、3度目の伝導旅行でエペソに、3年間滞在した際も、最終的にエルサレムに戻る途中で、再びコリントを訪問しました（使徒20：1-3）。コリントの信者たちと共にした長い時間と愛してやまない関係は、これから学ぶ、2通の心のこもった手紙に反映されています。パウロは、ローマ帝国の中でも最も盛んな国際都市の一つに住んでいた信者たちが直面している問題をよく知っていました。コリントは、商業、海運、貿易の中心地である、要衝の地に位置していました。歴史的に、古代の賢者たちの影響が及んでいました（したがって、第一コリントは「知恵」に大きな重点が置かれていました。）。また、町は、ギリシャの愛の女神アフロデイトの神殿に支配されていて、1,000人を超える男女の神殿娼婦が女神の崇拝を促進しました。古代コリントのキリスト者として生きることは容易ではありませんでした。したがって、他のどの教会に宛てた手紙よりも、コリントへの手紙が困難な問題-道徳的闘争、分裂、教義上の強要、訴訟、霊的賜物を取り巻くプライド（誇り）の問題、人の知恵と雄弁に焦点を当てる問

題、結婚の問題、聖餐式中の泥酔などに対処していることは驚くべきことではありません。この二通の手紙は、パウロが初期の教会に宛てて書いた手紙の中でも一番長いものです。初期の教会が直面している多くの闘争について学ぶだけでなく、問題に溢れる教会を導こうとした使徒パウロの個人的な闘争についても学びます。

コリント人の教会へのパウロの強い警告は、教会の主要な問題を解決へと導くに至らなかったため、パウロは、エペソを離れて「苦痛を伴う」訪問をする必要がありました（後に、2コリント2：1；12：14；13：1,2で言及する）。第一、第二コリント人への手紙や実際の訪問を参照した聖書学者たちは、パウロがコリント人に少なくとも4通の手紙を書いたと結論づけています。新約聖書に含まれているコリント人への手紙は、おそらくこの教会に書いた2番目と4番目の手紙であったと考えられています。

## コリント人への手紙第一の概要

**挨拶と前置き：1：1-9**

**コリントの派閥：1：10-4：21**

**コリントの無秩序：5：1-6：20**

**コリントの質問：7：1-15：58**

**結論と祝祷：16：1-24**

## 挨拶と感謝：1：1-9

ソステネの名が、冒頭の挨拶でパウロと並んで含まれています。彼は、教会の重要な指導者でした（使徒18：17）。パウロは締めくくりの挨拶で、「パウロが自分の手であいさつを書き

ます (16:21) 」と記しているのです、ソステネは、パウロの指示で秘書役を務めていた可能性があります。古代の作家がアマヌエンシス (文学助手-ローマ人への手紙 16:22 を参照) を用いることは一般的でした。この難しい手紙の冒頭にある賛美と感謝の言葉は、これらの信者を励まし、彼らを備えました。

### コリントの派閥争い : 1 : 10-4 : 21

コリントの人々がお気に入りの指導者を選び、対立し、派閥を形成しているために、教会が分裂したという知らせをパウロが受けました (1 : 10-17) 。コリント人は、知恵、話し方、体格、才能などに感銘を受けた様です。非常に強力で雄弁であったアポロは、その資質のめに人々を魅了し、お気に入りとなった様です。しかし、「キリストが十字架につけられた」というメッセージは、人の性格、雄弁さや知恵とは何の関係もありません。愚かさ (十字架につけられた救い主!) の様に見えながら、世俗の知恵を恥じることこそ「神の知恵」です。パウロは、福音のメッセージの神秘 (2 : 6-9) と、神の霊によるメッセージの超自然的伝達 (2 : 10-13) を指しています。なぜ多くの人々が十字架のメッセージを愚かであると言うのでしょうか? その理由は、「人」は、**霊によって助けられずして、神の知恵を理解することは不可能であるからです (2 : 14-3 : 4)** 。御霊が宿り、御霊の導きに歩む人は、神の霊によって与えられた知恵を理解し、受け取ることができます。ここにコリントのキリスト者の中心的な問題があります。彼らは神の霊から生まれ、神の子でしたが、彼らは御霊の導きに歩んでいませんでした。彼らは非キリスト教徒 (世俗的、幼見的、未熟な) の様に考え、行動していました。

**3:1** 兄弟たちよ。わたしはあなたがたには、霊の人に対するように話すことができず、むしろ、肉に属する者、すなわち、キリストにある幼な子に話すように話した。**3:2** あなたがたに乳を飲ませて、堅い食物は与えなかった。食べる力が、まだあなたがたになかったからである。今になってもその力がない。**3:3** あなたがたはまだ、肉の人だからである。あなたがたの間に、ねたみや争いがあるのは、あなたがたが肉の人であって、普通の人間のように歩いているためではないか。**3:4** すなわち、ある人は「わたしはパウロに」と言い、ほかの人は「わたしはアポロに」と言っているようでは、あなたがたは普通の人間ではないか。(第一コリント 3 : 1 - 4)

私は、キリスト者になった頃、この世には3種類の人々が存在するのを知りました：神／キリストの御霊が内に住んでいない人 (未信者)。御霊が宿っており、御霊と歩んでいる霊的な人 (キリスト者)。霊が宿っておられるが、「霊に満たされていない (聖霊に支配されていない)」、世俗的な人 (未熟なキリスト者-上記の翻訳は「世俗的な」という言葉を用いていますが、実際のギリシャ語は「肉の」または「肉欲の」です。-エペソ 5:18)。したがって、キリストの御霊が内に宿る神の子になることはできますが、未信者の様に生き、行動することは可能です。それがコリントの教会の問題であり、また今日の多くのキリスト者にとっても、問題です。今の生活をどの様に描写できるでしょうか? 人生にキリストをお招きされたのでしょうか? キリスト者でいらっしゃる場合、御霊主導のキリスト者でいらっしゃいますか、それとも肉体的、世俗的、未熟なキリスト者でいらっしゃいますか? 私たちの態度、言葉、行動は、私たちの真の霊的状態の指標です。

パウロは、キリストの僕も、神のために仕える働き人もそうでなければならず、私たちのお気に入りの人の個性のために栄光があってはなりません。

**3:5** アポロは、いったい、何者か。また、パウロは何者か。あなたがたを信仰に導いた人にすぎない。しかもそれぞれ、主から与えられた分に応じて仕えているのである。**3:6** わたしは植え、アポロは水をそそいだ。しかし成長させて下さるのは、神である。**3:7** だから、植える者も水をそそぐ者も、ともに取るに足りない。大事なのは、成長させて下さる神のみである。**3:8** 植える者と水をそそぐ者とは一つであって、それぞれその働きに応じて報酬を得るであろう。**3:9** わたしたちは神の同労者である。あなたがたは神の畑であり、神の建物である。(3:5-9)

最終的に、それぞれの僕は、教会を築くために、いかにに神と協力したかについて、神によって評価されます(3:5-15)。パウロは、様々なものに火をつけるという比喩を用いています。貴金属でできたものは、炎や熱に耐えますが、木材、干し草、わらは、すぐに燃え尽きます。神がご自分の王国のために一人一人の働きをお裁きになるとき、その様になるでしょう。外見は良さそうに見えますが、自己中心的な動機で行われた働きは、神はお見通しです。真の心を知っておられ、それらの間違った動機による「働き」は燃やされます。ですから、外見にさほど感動しないようにしましょう！

**3:12** この土台の上に、だれかが金、銀、宝石、木、草、または、わらを用いて建てるならば、**3:13** それぞれの仕事は、はっきりとわかってくる。すなわち、かの日は火の中に現れて、それを明らかにし、またその火は、それぞれの仕事がどんなものであるかを、ためすであろう。**3:14** もしある人の建てた仕事そのまま残れば、その人は報酬を受けるが、**3:15** その仕事が焼けてしまえば、損失を被るであろう。しかし彼自身は、火の中をくぐってきた者のようにはあるが、救われるであろう。(3:12-15)

ですから、コリント教会は、人間の指導者とその外見の印象について自慢することをやめるべきです。そうすることで、「神の宮」を破壊していることとなります(3:16-23)。

親愛なる友であり指導者であるトーマス・アブラハム博士は、「天国に行って、巨大な灰の山の前に立ちすくむようなことになりたくない!」と言ったことがあります。第一コリントのこの一節に言及していたのです。今、トーマスは、イエスと共に天国にいます。世界中で、キリストのからだを築く彼の働きは、その誠実さと人生と奉仕において、イエスを敬いほめたたえるものとして、今日も受け継がれています。神が彼の働きを裁かれるとき、その人生の働きは、決して灰の山にならないことを確信しています。イエスの忠実な僕としての報酬を、彼が愛する妻モリーと一緒に受け取ると確信しています。シャーリーと私へのトーマスによる影響は決して忘れることはありません。

コリントの問題全体の中心にあるのは、誇りの問題でした(参照:4:6-13, 18, 19, 5:2, 8:1, 13:4)。コリントの教会の誇りとパウロ自身の喜びからの謙遜さとをパウロは対比しています(4:8-13)。パウロは、人間の目から見て高く評価されるどころか、自分自身を「天使にも人々にも見せ物にされた」と描写しています(4:9)。それでも、パウロは霊的な子どもたちのために、大いに苦しむことを喜びました。パウロは、コリントの人たちが謙遜になり、パウロにならう者となりなさいと勧めています。

**4:14** わたしがこのようなことを書くのは、あなたがたをはずかしめるためではなく、むしろ、わたしの愛児としてさとすためである。**4:15** たといあなたがたに、キリストにある養育掛が一万人あったとしても、父が多くあるのではない。キリ

スト・イエスにあって、福音によりあなたがたを生んだのは、わたしなのである。4:16 そこで、あなたがたに勧めます。わたしにならう者となりなさい。4:17 このことのために、わたしは主にあって愛する忠実なわたしの子テモテを、あなたがたの所につかわした。彼は、キリスト・イエスにおけるわたしの生活のしかたを、わたしが至る所の教会で教えているとおりに、あなたがたに思い起させてくれるであろう。

(4 : 14 - 17)

パウロは、すぐに彼らを訪問することを約束しました(4:18-21)。コリントの教会への指摘に対する、彼らの反応は、パウロの訪問が幸せな訪問になるか厳しい訪問になるかを決定づけるでしょう！後の言及から、彼の訪問は痛みを伴う訪問であることが判明しています(2コリント2:1;13:1,2)。

### コリントの教会の無秩序 : 5 : 1-6 : 20

ここでパウロは、3つの難しい問題に取り組んでいます。

#### -教会の規律の欠如

教会の指導者(および人々)は、教会の重大な道徳的問題を無視していました。その一つ、父親の妻と寝ていた男についてのケースがパウロの耳に入った。コリントの道徳基準は非常に低かった。しかし、パウロは、教会が世に対して神聖な道徳を示すことを期待していました。パウロは、指導者たちに、一緒に祈るように呼びかけました。「裁きの日に問題に関わった個人の魂が救われる」ために、「彼の肉の破壊」のためにサタンに引き渡すよう祈るためです。たとえその規律が肉体的な死をもたらしたとしても、神がその個人の人生に強い

懲らしめのために祈ったということを意味します。コリント人への手紙第11章27-32節の同じ考えを参照しましょう。パウロは、主の晩餐の誤用(ふさわしくないままでパンを食し主の杯を飲むものは主のからだを汚す)のために、これらの信者に病気や死さえも襲っていることを示しています。教会内での多くの不道徳な慣行を容認するという、より広範囲な問題が扱われています(5:9-13)。「小さなパン種(罪/悪)が生地の塊(教会)全体を発酵させる。」注:もし2コリント2:5-11がこの同じ人物/状況(おそらくそうであると考えられる)を指しているなら、神の一時的な懲らしめがその人に罪を悔い改めさせ、教会での交わりに回復させたいという効果が望まれる。

私たちが地域教会に献身するとき、互いにイエスに従うよう励ますことを約束しています。兄弟姉妹が罪に歩むことを選んだとき、彼らの回復を助けるために愛をもって彼らを追いかけなければなりません(ガラテヤ6:1参照)。ヤコブは、次の様に記しています:わたしの兄弟たちよ。あなたがたのうち、真理の道から踏み迷う者があり、だれかが彼を引きもどすなら、かように罪人を迷いの道から引きもどす人は、そのたましいを死から救い出し、かつ、多くの罪をおおうものであることを、知るべきである。(ヤコブ5:19,20) 私たちは皆、壊れています。皆、つまづきます、失敗します。強く立つためにはお互いが必要です。午前2時の友達は誰ですか? あなたは誰を助けますか? 誰があなたを助けますか?

#### -信者間の訴訟

キリスト者は、神を知らず、神の道を敬わないローマ人の前で、個人的論争を公の裁判に持ち込んでいました。パウロは、信者内部での争いを治めるために自分たちの法廷を形成

することさえできないことを懸念しました。キリスト者が互いに訴え合っているところを世に見せるのは、イエスの御名にとって不名誉でした。パウロは、論争を公共の場に持ち込み互いに訴えあうよりは、不正を受けたままの方がまだましであると主張しています。

**6:6** しかるに、兄弟が兄弟を訴え、しかもそれを不信者の前に持ち出すのか。 **6:7** そもそも、互に訴え合うこと自体が、すでにあなたがたの敗北なのだ。なぜ、むしろ不義を受けないのか。なぜ、むしろだまされていないのか。 **6:8** しかるに、あなたがたは不義を働き、だまし取り、しかも兄弟に対してそうしているのである。(6 : 6 - 8)

#### -性的不道徳

以前も触れましたが、コリントは、アフロディテの神殿として知られ、約 1,000 人の神殿娼婦がいました。パウロは、娼婦に行くことについて具体的に述べていますが (6 : 15-19)、コリントの不道徳のより広い問題について言及していました (参照 : 5 : 9-13; 6 : 9-10; 6:13)。また性的結合について、神秘的なものがあると主張している。私たちの体は聖霊の宮であり (キリストを受け入れると)、キリストに加わります (6:15)。内の聖なる神殿に不道徳を入れることが出来るでしょうか? 聖なるものと聖くないものの結合ということです。不品行から逃げましょう!

**6:16** それとも、遊女につく者はそれと一つのからだになることを、知らないのか。「ふたりの者は一体となるべきである」とあるからである。 **6:17** しかし主につく者は、主と一つの霊になるのである。 **6:18** 不品行を避けなさい。人の犯すすべての罪は、からだの外にある。しかし不品行をする者は、自分のからだに対して罪を犯すのである。 **6:19** あなたがたは

知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。 **6:20** あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい。(6 : 16 - 20)

性的罪への誘惑は特異です。パウロは、私たちに性的不品行から逃げ去るよう教えているからです (ヨセフが性的罪の場に直面したときに、どう対処したかをご覧ください-創世記 39 : 7-18)。パウロは、悪魔に立ち向かうようにと教えています。しかし、性的な罪に関しては、逃げなさいと教えています! 抵抗することは困難であり、私たちの生活に害を与えます。あなたは性的誘惑の分野の何から逃れる必要がありますか? 罠に陥ってはなりません。逃げましょう!

#### コリントの質問 : 7 : 1-15 : 58

第7章の冒頭: 「さて、あなたがたが書いてよこした事について答えると。。」の箇所から、コリント人は、パウロに手紙で質問をしたことがわかります。第7章1節と同じ「さて、あなたがたが書いてよこした事について答えると。。」の形式が 7 : 25、8 : 1、12 : 1、16 : 1、16 : 12 で登場します。したがって、第一コリント人への手紙の殆どは、様々な問題について尋ねた質問に対するパウロの返答です。

#### -結婚問題に関して

第7章は、結婚問題に関する聖書の中で最も長い箇所です。多くのことを教えてください。

1. 結婚は、性的純粋さを追求するための神の贈り物です (7: 1-7)。

2. 夫と妻は、この贈り物を長期間差し控えないで、喜んで贈り物として配偶者に体を捧げなければなりません。でなければ、性的誘惑が問題になる可能性があるからです (7: 3-5)。

3. パウロは、もっと多くの人が独身の賜物をもつことを望んでいましたが、それは自制の賜物を与えられている者に限り、個人的嗜好の問題ではないことを理解していました (7: 6-7; 7: 39,40)。

4. 性的誘惑が絶え間ない闘争であるなら、絶えず情熱を燃やすよりも結婚するほうがいい (7: 8,9)。

5. 信者は、未信者の配偶者にみきりをつけるべきではありません。信者は未信者 (および子供たち) に神聖な影響を与え、それが彼らの救いにつながる可能性があるからです (7: 10-16)。

6. 未信者の配偶者が信者に見切りをつけた場合、信者は、キリスト者と再婚することができます。信者が未信者を捨てるなら、彼／彼女は未婚のままでなければなりません (7:11)。

7. 結婚を望むことに罪はありません。パウロは、独身を勧めています。それは、主への献身に気を散らされなくて済み、結婚生活の多くの避けられない複雑な困難を避けられます (7: 25-35)。

8. 既婚者は、関心が分かれた状態で生活することになります。注意とエネルギーは必然的に (そして正當に) 神への献身と配偶者への献身に分かれます (7: 32-35)。

9. 結婚への欲求が非常に強く、独身でいることは無理であれば、結婚する方がよい (7: 36-38)。

10. 配偶者と死別した場合、キリスト者は、別のクリスチャンと再婚することができます (7:39)。

聖書が結婚問題についてこれほど多く語っていることをご存知でしたか？ 第一コリント第7章をじっくり読んで、結婚や独身の見方を評価されたことがありますか？是非、熟読し上記の箇条書きを調べてください。この章から、結婚の見方、結婚の実践、独身でいることについて、何を学びましたか？ また、離別、離婚、放棄などの問題に関するあなたの見解をどのように形作っていますか？ 私たちの文化には、結婚について「何でもあり」という考え方があります。しかし、神は、私たちのために結婚をデザインされました。マスターデザイナーが何を意図されたかじっくり調べましょう。

### -良心の問題に関して

パウロは「偶像に捧げられた肉」 (8章から10章) について、多くの時間を費やしています。当時、異教の寺院では、神に肉の犠牲を捧げることが一般的でした。その後、肉は売り手に販売され、その肉は地元の市場で販売されます。したがって、偶像に捧げられた肉を口入れている可能性がありました。一部のキリスト者にとって、これは良心が咎められる問題でした。他の人 (パウロを含む) にとっては、問題はありませんでした。真の神は、唯一であられ、「偶像」は人間の手で作られており、真の「神」ではないからです。したがって、肉は単に「肉」であり、罪悪感を感じることなく食べることができました。ここで広範な問題は、「彼らがつまづく可能

性のある問題に関して、私たちは、どのようにキリストの兄弟姉妹を取り扱うべきか？」です。

**パウロが語った内容をそれらを要約すると：**

1. お互いに対する愛の原則は、何が正しいか、何が間違っているかに関する知識の原則よりも優れています (8 : 1-3)。
2. 真の神は、唯一の神ですので、「偶像」(無意味)に捧げられたものを心配する必要はありません (8 : 4-6)。
3. 一部の信者は、上記、第2番目を理解していないので、特定の肉を食べるとき、良心から罪悪感を感じます (8 : 7-8)。
4. (肉を食べることができる)「強い」信者は、食べられる自由が、この問題に対して良心がまだ敏感な「弱い」信者にどのような影響を与えるかを認識しなければなりません (8 : 9-11)。彼らは、(より強い人の例につられて)食べるかもしれませんが、その後、罪悪感と共に生きることになります。
5. 私たちの行動が他の人にどのような影響を与えるかを考慮せずに、キリストの自由を体験することは、キリストに対して罪を犯すことです (8 : 12-13)。
6. パウロは、他の人々の生活における福音の進歩のために、多くの分野(結婚、給料、飲食など)でキリスト教の自由の行使を制限しました (9 : 1-23)。他の人がパウロの人生とその口が語る福音のメッセージを受け取ることを困難にするようなことを避けました。

7. 私たちは、地上の報酬を受け取るために競技を競い合っているわけではありません。永遠の報酬を手に入れようとしています (9 : 24-27)。この視点は、パウロの体の欲求(食物、性別、物質的なもの等)の僕ではなく、体を僕にすることを可能にしたものです。

8. 偶像崇拜の罪 (10 : 1-22) に、私たちに近づけようと導くものを避けるべきです。「悪をむさぼってはならない」(10 : 6)。これには、性的不道徳、食物、幸福、物質的なもの、名声、キャリアアップ、人の称賛などが含まれます。

9. 神は、常に偶像崇拜の罪から逃れる方法を与えてくださいます。ただし、その逃げ道を探し出し、実行する必要があります (10 : 12-14)。

10. 決して、イエスへの献身と地上の「偶像」への献身を混合させてはなりません (10 : 15-22)。

11. 復習：すべてのものは許されていますが、すべてのものがキリストにある兄弟や姉妹を作り上げるわけではありません。愛をもって、自分の欲求を満たすものではなく、隣人を築くものを探しましょう (10:23-33)。

あなたの行動がキリストにある兄弟や姉妹にどのような影響を与えるか考えたことはありますか？自分の良心でワインを飲む自由があるとしましょう。あなたのライフグループの友人が夕食に来て、彼らが過去にアルコール中毒に苦しんでいたことを知りました。あなたは、彼らのために、飲む予定にしていたワインを諦めませんか？または、菜食主義者である友人がいるとしましょう。彼らを昼食に招待するとき、ベ

ジタリアンの選択肢が限られている所ではなく、その日はベジタリアンの店に連れて行きたいと思われませんか？パウロは、私たちの生活とキリスト教の自由は、他の人の良心によって完全に定義される必要があると言っているのではありません。それでも、自分の欲望を最優先するよりも、兄弟姉妹への愛を優先する必要があると言っています。この教えを踏まえて、あなたによるキリストの「自由」の行使につまずく原因となる可能性のある人を今週どのように愛することができるでしょうか？

### -礼拝中の男女のマナーについて

コリントの教会の礼拝生活に文化的規範からもたらされた、男と女の服装と行動に関する重要な文化的問題があったことが明らかです。これは、教会における男女の役割とマナーに関して、論争になりやすい部分です。文化的状況の根底にある主要な原則に焦点を合わせて、ポイントごとに、聖句そのものに語っていただきましょう。

1. 三位一体の中に「頭主」と「従属」があります。御父は御子の頭です。御子は御父に身を委ねます。男と女が神の秩序を反映するとき、何らかの神秘的な方法で、この頭首と従属は人間の領域でも行われています (11:1-3)。

2. 女の頭のかぶり物 (長い髪、または他の何らかの形で頭を覆うもの) は、その文化では、教会礼拝の場で、夫を敬う女性の明確な兆候でした (11:4-6)。注釈：コリントの神殿の娼婦は、短い髪をしていたか、坊主頭でした。ここでは髪の長さの問題に係している可能性があります。他の文化 (今日も含め) においては、女性の短い髪とコリントの原則とは無関係です。

3. 女たちは、教会で「祈り」を捧げ、「預言」も行っていました (11:5)。それはここでの重要な所見であり、後の「沈黙」の忠告の理解に影響します (14:34)。

4. かぶり物の問題は、人間の領域で展開されている、より大きな神秘の一部です。男は神の栄光を反映し、女は男の栄光を反映します (11:7-9)。これを考える一つの方法は、アイスダンスのカップル、またはバレエの「パ・ド・ドゥ」です。どちらも、男性の力 (神の栄光を表す) は、(男性の栄光として) 女性自身の力、美しさ、優雅さをもって、男性の上にそびえ立つ女性を持ち上げます。

5. 女の頭のかぶり物は天使たちのためでもある (11:10)。天使たちは、キリスト者たちが礼拝するのを見ているので、礼拝における男女のマナーは、すべての被造物に声明を出しています (11:10)。これは価値や平等の問題ではありません。権威や服従に関するものでもありません。人間の領域で男女が演じる神秘についてです (結婚の「巨大神秘」に関するパウロの同様の記述を参照してください-エペソ 5:32)。

6. 「主において」男と女は等しい価値を持ち、相互に依存しています (11:11-12)。したがって、礼拝におけるマナーと服装の問題は、価値や平等の問題ではありません。神の性質の神秘を反映する問題です。

7. あたまにかぶり物をする代わりに、女性の長い髪はその覆いとして機能しました (その文化において)。

第一コリント人への手紙を研究するとき、状況的、文化的特性から離れ、時代を超越した原則を見つけなければなりません。ここで、礼拝における男と女についてを扱う章では、



原則は、教会の礼拝生活における男女のマナーが見物人（人間と天使）に三位一体の関係のより壮大な物語を反映しているということです。帽子と長い髪はさておき。。。今日、私たちは、それぞれ男性と女性として、神の栄光をどのように反映することができますか？覚えておいてください。。。礼拝は自己表現の時間ではありません。むしろ、男と女が一緒になって神を高揚させ、神の人格の美しさをお互いに、そして世に反映する時です。それを踏まえて、オークポイント教会で神を礼拝する方法を変える必要があることがらありますか？異性に対する扱い方に関連して、神の栄光をよりよく反映するために、具体的に変える必要がありますか？

#### -主の晩餐における貧欲

コリント式教会の霊的状态に関する最も不面目で深刻な違反は、彼らの聖餐式の行い方にありました。初代教会では、主の晩餐は会食の一部として、食事の最後に祝われました（イエスが最後の晩餐で弟子たちと共に行われたように）。コリントでは、誰よりも先に、食にありつくことを求めていました。聖餐式に酔っぱらってくる者もいました。社会的地位の低い一部の人々には、食事が残らない様な状況でした。パウロは、その様な行動にショックを受けています。

**11:20** あなたがたが一緒に集まるとき、主の晩餐を守ることができないでいる。**11:21** というのは、食事の際、各自が自分の晩餐をかけて先に食べるので、飢えている人があるかと思えば、酔っている人がある始末である。**11:22** あなたがたには、飲み食いをする家がないのか。それとも、神の教会を軽んじ、貧しい人々をはずかしめるのか。わたしはあなたがたに対して、なんと言おうか。あなたがたを、ほめようか。この事では、ほめるわけにはいかない。（11：20-22）

パウロはその後、主の晩餐に関してよく知られている指示を与えます。パウロがここで書いていることのほとんどは、福音書の最後の晩餐におけるイエスの言葉に記されています。

**11:23** わたしは、主から受けたことを、また、あなたがたに伝えたのである。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンをとり、**11:24** 感謝してこれをさき、そして言われた、「これはあなたがたのための、わたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい」。**11:25** 食事ののち、杯をも同じようにして言われた、「この杯は、わたしの血による新しい契約である。飲むたびに、わたしの記念として、このように行いなさい」。**11:26** だから、あなたがたは、このパンを食し、この杯を飲むごとに、それによって、主がこられる時に至るまで、主の死を告げ知らせるのである。

（11：23-26）

パウロがここで加えた重要な追加は、信者が主の晩餐のために心を適切に準備しなかった場合、信者に何が起こるかについての説明です。この神聖な食事を価値のない方法で食べることは、自分に裁きを招くことです。

**11:27** だから、ふさわしくないままでパンを食し主の杯を飲む者は、主のからだと血とを犯すのである。**11:28** だれでもまず自分を吟味し、それからパンを食べ杯を飲むべきである。**11:29** 主のからだをわきまえないで飲み食いする者は、その飲み食いによって自分にさばきを招くからである。**11:30** あなたがたの中に、弱い者や病人が大ぜいおり、また眠った者も少なくないのは、そのためである。（11：27-30）

## ディスカッションのための質問

1. パウロは、コリントの「信仰による子供たち」に対し、実の親であるかのように呼びかけています。彼は、多くの問題が危機に直面している時に、しっかりと権威をもって話しました。パウロのアプローチは、あなたにどのような影響を与えましたか？
2. パウロは、霊のない人（自然）、霊のある人（霊的）、霊にまだ明け渡していない人（キリストの乳児／罪深い性質に支配されている）の3種類の人を描写しました。あなたはどの様に自分自身を説明しますか？（2：14-3：4）
3. 私たちの地上での生活と働きに対する神の裁きに関して、キリストのために捧げたあなたの人生と仕事が、神の御前で、激しい火の中にくぐらされて試されても灰にならない「金、銀、宝石」になると思われますか？（3：12-15）。
4. この手紙には、訴訟、性的罪の回避、神の「宮」としてのあなたのからだ、結婚と独身、偶像に捧げられた肉を良心で食べられない人々に対する敬意、または、他の良心の問題、および主の晩餐における不面目等の多くの困難なトピックが取り上げられています。これらのうち、あなた自身が個人的に考えたいものはどれですか？